

愛知医科大学学報



学生一人ひとりに授与された
Student Doctorのワッペン



2020年度白衣式挙行
(関連記事14頁)

＝ 第160号 ＝

2020. 10月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

令和2年度オープンキャンパスWeb開催	2
看護機能連携ネットワークの立ち上げ	3
令和3年度予算編成方針	4
大学コンソーシアムせと協定締結式挙行	6
大学評価受審に伴う実地調査実施	7
2020年度白衣式挙行	14
Smile ～スマイル～	38
教育・研究最前線	39

令和2年度オープンキャンパスWeb開催

令和2年度のオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本学ホームページ上に「Webオープンキャンパス特設サイト」を開設し、併せてZoomを用いたLIVE企画等を配信することにより開催されました。

特設サイトは、令和2年8月11日（火）に公開され、ここでは、医学部・看護学部それぞれの「学部紹介」・「入試概要説明」・「キャンパスツアー」動画を配信し、また、「ドクターヘリ紹介」動画や既存の大学病院関連の動画も同サイトから閲覧できます。更に、トップページにはキャンパスマップが表示され、気になる施設やイベントを選択して、それぞれの情報が得られ、キャンパスの全体像をイメージできるようなサイトにしました。「Webオープンキャンパス特設サイト」は、好評につき公開を継続しています。

また、8月22日（土）及び23日（日）には、Zoomによる当日限定企画（予約制）として、医学部では「学生トークライブ」、看護学部では「個別相談会」が実施されました。

「Webオープンキャンパス」は初めての試みでしたが、これまで以上に多くの方々から在学生の生の声をお届けでき、コロナ禍においても、受験生の皆さんへの貴重な情報発信の場となりました。

◆ 医学部「学生トークライブ」

- 愛知医科大学への合格の秘訣教えます！（入試合格体験談）
- グローバル化する愛知医大生－海外9大学との国際交流－（留学体験談）
- 愛知医大生の研究力－学生が解剖学の教科書を出版！－（研究体験談）

◆ 看護学部「個別相談会」

- 教員との個別相談会
- 奨学金等個別相談会



Webオープンキャンパス特設サイト

【参加者の皆さんからの感想】

- ・ 大学についてたくさんを知ることができました。キャンパスツアーでは、ホールや食堂、シミュレーションセンターなど、色々な施設を実際に見学しているようでした。
- ・ 入試について、改めて口頭で聞くことができ、しっかりと理解できました。
- ・ 愛知医科大学の医学部への憧れはもちろんのこと、卒後は附属病院の救命救急科で医師として勤務し、活躍することが目標の僕からすると、ドクターヘリの紹介は胸が弾むものでした。
- ・ Zoomを使用した個別相談会は、対面とは違って緊張することなく話やすく、メモをとりながら落ち着いて相談することができました。また、質問したいことにしぼって話をすることができました。



学生トークライブの様子

患者さんの暮らしを看護で支える ～看護機能連携ネットワークの立ち上げ～

副院長・看護部長 井上 里恵

特定機能病院である愛知医科大学病院には、高度かつ最先端の医療を受けるために、患者さんが受診・入院されています。超高齢社会に突入した日本では、その人らしい暮らしを支えるための医療・介護が連携する「地域包括ケアシステム」が進められています。このため、愛知医科大学病院では近隣の37病院と病病連携ネットワークシステムを構築し、本院における急性期治療が終了した後に、次の役割機能を持つ病院に円滑に転院できるように、電話、メール、FAXなどを用いて患者情報の交換を行ってきました。また、転院前には、カンファレンスの開催や、看護サマリーの送付等を行っていましたが、転院先の病棟看護師と本院の病棟看護師が直接情報交換をすることが少ない状況でした。

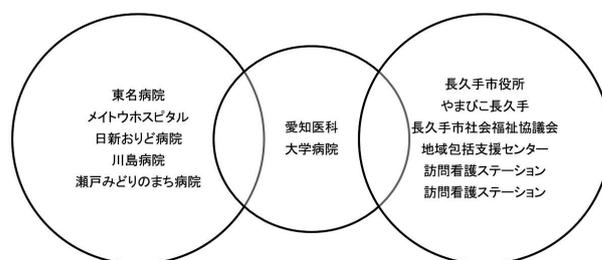
私たち看護職は、治療的ケアと生活支援の専門家です。「高度急性期病院の治療が終わった後も治療、療養生活が円滑に続けられるよう、患者さんやご家族の生活の質（Quality of Life）を維持・向上するために更に力を合わせたい！」と思っています。2020年はナース生誕200年の記念すべき年であり、「看護の力で健康な社会を！」をスローガンに、Nursing Nowキャンペーンが世界中で繰り広げられています。

その様な中、愛知医科大学病院では、大学病院と近隣病院が連携を深め、治療的ケアと生活支援の両面を担う看護連携構築に向けた「看護機能連携ネットワーク」が立ち上がり、7月8日（水）に近隣5病院の看護部長等が出席の中、第1回の定例会議が開催されました。地域包括ケアシステム形成の第一歩として、5病院の看護部長とともに毎月の定例会議をスタートさせ、徐々にネットワークの病院を拡大していく予定です。また、長久手市ともビジョン



看護機能連携に向け課題を話し合う会議の様子

看護機能連携ネットワーク参加施設





看護の力で健康な社会を！

を一つに連携を深めていく予定です。連携病院からは、技術指導のための認定看護師の派遣や、研修会への参加など人事交流等に大きな期待が寄せられています。

団塊の世代が75歳を迎える2025年はもうすぐです。高齢者に限らず、小児の在宅ケアも含め、それぞれの看護機能を連携・発揮しながら、愛知医科大学病院の医療・看護を受けられる患者さんとそのご家族に満足して頂けるように、ネットワークを充実させていきたいと考えています。

令和3年度予算編成方針

I 基本方針

令和元年度、本学の事業活動収支差額は、平成25年度以来6年ぶりの黒字決算となりました。これは文部科学省が新しく示した指標である経常収支差額においても、平成24年度以来7年ぶりの黒字となりました。経常収支差額は、平成28年度以降毎年、約6億円、約9億円と改善し、令和元年度は、更に13億円改善してプラス約4億円を計上することができました。新病院開院後6年間、地道な努力を積み重ねた結果、財政基盤が整ってきたところです。

本学財政を取り巻く状況を見ると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、国民生活、経済活動にも大きな影響をきたしています。国の緊急事態宣言は5月25日に解除されましたが、今もなおクラスターの発生が散見され、第三波の到来も懸念されています。世界銀行は今年の世界経済成長率が、5.2%のマイナス、日本と米国の経済成長率はそれぞれ6.1%の大幅なマイナスになると見込んでいます。人やモノの国際的、国内的な移動・輸送・流通、更には旅行や外食等あらゆる分野・領域に大きな混乱と制約を及ぼしており、平成20年9月のリーマンショックを超える戦後最悪の経済状況となることは避けられそうになく、国の新型コロナウイルス感染症緊急経済対策では、一般会計歳出を昨年度の約1.5倍という大規模な財政出動がされることになりました。

本学においても、Web授業の開始、学納金の減免、入学試験対応、電子カルテを中心とする病院医療情報システムリプレイスの延期、新型コロナウイルス感染症感染患者の受入病床の整備、感染症対策、各種イベントの開催方法の見直し等コロナ禍の影響は枚挙にいとまがありません。しかし、国難には立ち向かって行かなければ道は開けません。来年度の予算編成に向け、今だからこそできること、やるべき

ことに気付き、事業計画として位置付け、迅速に対応しなければなりません。国においては、「危機の克服、そして新しい未来へ」と銘打った「経済財政運営と改革の基本方針2020」と「中長期の経済財政に関する試算」がまとめられました。

本学の状況を見ると、コロナ禍は病院に医療収入の減少をもたらし、医療提供体制の見直しの必要性を再認識させられました。病院経営は固定費負担が大きく、人口減も続く中、従来通りの医療提供体制のままでは病院経営は成り立たないことから、病院の機能分化と連携による、地域完結型医療への改革が不可欠であることを共通認識とする必要があります。地域医療システムは、急性期医療に対応する広域型病院（基幹型病院）と多様な形態を持つ地域密着型病院（地域包括ケア支援病院）の二つに分化し、地域の実情に応じて適切に配置・連携させる、新たな地域医療ネットワークの確立が急がれるところです。本学の使命の一つとして、実践的な現場教育による地域医療の担い手、実践者、研究者を育成することが挙げられます。本学の今後の発展のためには、一刻も早く分院を設置し、地域医療に貢献すること、ファミリーメディスンに代表されるこれから求められる医療人を育成していくことが重要な鍵となっています。

来年度予算は、未来への志向は揺るぎなく保ちつつ、刻々と変化する内外の状況に、流動的に対応できる、柔軟かつ瞬発力の出せる枠組みで編成することとします。

II 重点事業

令和3年度予算編成は、資金収支予算ベースでは経済変動の影響を柔軟に受け止めるとともに、いざというときの瞬発力となる繰越支払資金の具体的な目標金額を60億円とし、事業活動収支予算ベースで

は、経常収支の黒字予算確保を図ることとします。
上記の考えを具体の予算に反映するため、各編成単位においては中長期的な観点に立った、次の「重点事業の目的」に合致した計画立案を求めるとし、定量的な成果が見込める事業を優先します。

<重点事業の目的>

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 教育機関としての成果が期待できる事業 | 6. 病院機能評価受審関連事業 |
| 2. 研究支援体制の強化に係る事業 | 7. 私立大学等改革総合支援事業対策 |
| 3. 病院の機能活性化推進事業 | 8. 創立50周年記念事業 |
| 4. 医療収入・薬品材料費・診療材料費 | 9. イノベーションプロジェクト事業 |
| 5. 分院設置に向けた事業 | 10. 令和2年度一時停止事業 |

PCR行政検査の受託事業実施

本院では愛知県からの委託を受け、唾液によるPCR行政検査が令和2年10月15日（木）から開始されました。

本事業は、地域の医療機関において新型コロナウイルス感染症のPCR検査が必要と判断された患者さんに対して、愛知県が各医療機関から検査予約の受付を行い、本院では愛知県からの検査依頼を受けてPCR検査をドライブスルー形式で実施するというものです。

現在、愛知県の状況下における新型コロナウイルス感染症の発生者数は多くありませんが、今後、発生者数が著しく増加した場合には、この検査体制は



検査受付の様子

より重要な役割を担うこととなります。本事業に協力することで、少しでも地域医療に貢献できることを願っています。

大学・病院へのご寄付に感謝申し上げます

大学病院を有する本学へのご協力として、BENKEIから、食料（菓子パン330個）のご寄付についてお申し出を賜りました。このたびのご厚意に

深く感謝申し上げますとともに、前号に引き続きご紹介させていただきます。（受領期間：令和2年9月16日～11月15日）

「大学コンソーシアムせと」愛知医科大学入会協定締結式挙行

本学は、令和2年4月1日に「大学コンソーシアムせと」に入会しました。その入会協定締結式が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で延期されていましたが、令和2年9月30日（水）に瀬戸市役所北庁舎で開催され、大学コンソーシアムせとの赤楚治之理事長（名古屋学院大学長）、祖父江元 学長、立会人の伊藤保徳瀬戸市長が協定書に署名しました。

大学コンソーシアムせとは、瀬戸市と近隣の高等教育機関が協働して、新しい文化活動を創り出し、地域に貢献していくことを目的に、平成15年に発足されました。既に加盟している愛知工業大学、金城学院大学、名古屋学院大学、名古屋産業大学、南山大学に加え本学が新たに入会し、瀬戸市と加盟大学との連携を更に推進し、相互の発展に寄与することを目指します。

祖父江学長からは、「大学は地域に支えられて、かつ地域とともに活動していくことが最も大きな柱になります。私も着任以来、地域連携を非常に重要視しており、今回入会させて頂くことになりました。



左から、伊藤市長、赤楚理事長、祖父江学長

活動する参加者全員が全力を挙げて頑張っており、ご支援ご指導の程お願い致します。」とあいさつの言葉がありました。

本学の今年度の活動は、大学生によるまちづくり活動応援助成金事業として、瀬戸市内の子ども食堂で、医大生の専門知識を生かした絵本や食事レシピ等を作成し配布する活動を行います。更に、カレッジ講座では、本学看護学部の子山本恵美子准教授による、モデル人形を用いて一次救命処置を体験し、学ぶ講座を予定しています。

「私立大学研究ブランディング事業」採血事業実施

平成30年度に採択された文部科学省私立大学研究ブランディング事業の一環として、令和2年9月及び10月の4日間にわたり、長久手市職員を対象とした採血とアンケート調査が行われました。コロナ禍の実施となったため、消毒・換気の徹底、人数制限など感染対策に万全を期しての実施となりました。

本事業では、炎症に関する学内研究を推進して健康状態の客観的評価法を確立するとともに、長久手市対象のコホート研究の基盤整備を行います。本研究成果を基に「健康維持・増進を支える次世代先制地域医療」システムを構築し、健康長寿社会の実現を目指します。

研究には、多くの健康な方の血液検体と健康情報が必要になります。今回、長久手市役所の協力を得



血液献体採取の様子

て、市職員約200名の血液検体が採取されました。この貴重な検体と情報を用いて7件の研究を展開していきます。今後、更に市民の方々のご理解・ご協力を賜りながら協力者を募っていく予定です。

大学評価受審に伴う実地調査実施

学校教育法の改正に伴い、平成16年度から始まった第三者評価制度により、全ての大学が7年ごとに文部科学大臣の認証を受けた機関の評価を受けることが義務付けられています。評価結果は広く社会に公表され、大学が社会的評価を受けるとともに、大学自らが改善を図ることを目的としています。

本学では、平成25年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）を申請し、「適合している」との評価結果を得ており、その認定期間が令和3年3月末をもって満了となります。このため、令和3年4月1日から7年間の認定を得るため、大学全体で大学評価受審の対応を進めており、令和2年10月11日（日）及び12日（月）の2日間にわたり、大学本館7階711特別講義室において実地調査が実施されました。今年度の実地調査は新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、Zoomを活用したりリモートでの実施となりました。【写真】

当日は、祖父江元 学長、若槻明彦副学長、坂本真理子副学長を始めとする学部・研究科等の教学役職者及び関係事務職員が出席し、大学の教育研究活



動及び学生支援等に係る質保証の取り組みについて意見交換が行われました。

実地調査の意見交換は、令和元年度に提出した本学の自己点検・評価報告書及び根拠資料に対する評価結果案に基づき実施され、実地調査の結果を踏まえて最終的に大学評価結果が得られることとなっています。

本学では、今回の大学評価受審により明らかになった改善点への取り組みはもちろんのこと、日々変わりゆく社会のニーズに対応できる大学を目指し、これからも邁進していきます。

科研費獲得支援セミナー及び申請に関する事務説明の実施

令和2年9月3日（木）午後6時から、ビデオ会議ツール「Zoom」を用いて、科研費獲得支援セミナーと題して、科学研究費助成事業（科研費）への申請予定者に対してセミナーが行われ、122名の参加がありました。

今年度は、久留米大学分子生命科学研究所教授の見島将康氏をお招きし、採択される申請書の書き方、コツなどについて、講演して頂きました。また、見島氏は「科研費獲得の方法とコツ」等、科研費獲得に関する多数の書籍の著者であり、これまで多くの

科研費獲得に関するセミナーを全国で行っており、本学では2回目のセミナー実施となりました。

また、セミナー後には、総務部研究支援課の加藤広悟主事から、科研費の申請方法や事務的な注意点についての説明が行われました。

セミナー及び事務説明後には多くの研究者から質問が寄せられるなど、有意義なものとなりました。今後も、研究活動の一層の活性化と科研費を始めとする競争的資金の獲得を推進していきます。

eラーニングシステム（AIDLE-K）及びeポートフォリオシステム（Mahara）利用説明会開催

令和2年8月25日（火）午後4時30分から、総合学術情報センター（ICT支援部門）主催のeラーニングシステム（AIDLE-K）及びeポートフォリオシステム（Mahara）利用説明会がオンラインにて開催され、20名の参加がありました。

説明会では、ICT支援部門の担当者から両システムについての概要と基本操作の説明が行われました。AIDLE-Kは、ファイルのアップロード、課題の提出、小テストの実施及びアンケートの収集など、パソコンや携帯端末を活用した授業支援に効果的な機能を有しており、インターネットを介して自宅など学外からも予習・振り返り学修等に利用できるようになっています。また、Maharaは講義資料やレポート、授業のメモ、プリント、教師や同僚のコメント

及び課外活動など、教員や学生の学びに関わるあらゆる記録をデジタル化して整理することができる機能を有しており、ポートフォリオとしていつでも振り返ることができるようになっています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い遠隔（オンライン）講義が実施されていることから、これまで以上にeラーニングシステム、eポートフォリオシステムの必要性が高まっており、一層の利活用が期待されます。

総合学術情報センター（ICT支援部門）では、今後も教育におけるeラーニングシステム及びeポートフォリオシステム活用のサポートを通じて、授業や自学自習における学修支援を行うとともに、教育現場での活用に貢献することを目指しています。

私立大学等経常費補助金説明会（基礎編）の実施

令和2年9月25日（金）午後3時から大学本館4階第2会議室において、本学事務職員を対象に「私立大学等経常費補助金説明会（基礎編）」が開催されました。

この説明会は、例年、日本私立学校振興・共済事業団によって学外で開催されていましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となりました。その代わりとして社会連携推進室が主催し、補助金事務を初めて経験する方や補助金の仕組

みを学びたい方向けに説明会が実施されました。説明会では、経常費補助金の概要や計算方法、補助金制度に係る背景や私立大学等改革総合支援事業など、私立大学職員として必要な基礎知識の説明がありました。

終了後のアンケートには、「もっと詳しく説明を受けてみたいと思った。」、「資料がポイントを押さえていて分かりやすかった。」、「自身の業務に活かしていきたい。」などの感想がありました。

大学コンソーシアムせとカレッジ講座開催

令和2年10月3日（土）瀬戸市のパーティせと5階アリーナにおいて、看護学部基礎看護学の山本恵美子准教授による、大学コンソーシアムせと「カレッジ講座」が開催されました。今回の講座では、「大切な人を守るために～体験してみよう！一次救命処置～」と題した講演及び講習が行われ、21名の市民の方々に参加して頂きました。なお、新型コロナウイルス感染症の流行下のため、感染防止対策を徹底した上で実施されました。

始めに、一次救命処置に関する講義を行い、次に看護実践研究センター地域連携・支援部門の教員指導の下、モデル人形を用いた胸骨圧迫とAED操作を参加者全員が体験しました。参加された皆さまは、熱心に取り組まれていました。

今回のテーマは、大切な人を守るために市民の皆さまが実践できる一次救命処置の体験といった内容であり、ご夫婦や近所の方を誘って来られた方がみえました。身近な人を大切に思う気持ちが伝わり、瀬戸市の地域住民の皆さまの自助、共助への意識の高さが伺える講座となりました。

受講者からは、「初めてのことでしたが、良い体験をしました。今後役に立たいと思います。」「指導が親切で、説明が分かりやすかったです。」などの感想がありました。



山本准教授による講演の様子



胸骨圧迫とAEDの操作体験

の感想がありました。

今後も看護実践研究センター地域連携・支援部門では、大学コンソーシアムせとにおいて、地域住民の皆さまの健康ニーズに即した講座を企画していく予定です。

採用事務職員内定式挙行

令和2年10月1日（木）午後3時から大学本館4階役員会議室において、令和3年度採用事務職員内定式が挙行されました。

式では、内定者2名に内定証書が授与された後、島田孝一法人本部長から、「今、世間ではコロナ旋風が吹き荒れておりますが、本学では内定取消といったことはありませんので、安心して頂きたいと思っています。新病院のオープンから始まったキャンパスの再整備も終わり、これからは中身の充実注力し、新しい病院としての機能を大いに発揮しようとしている時期に良い人材に来て頂きました。来



内定者と記念撮影

年の4月に再会することを楽しみにしています。」とあいさつがあり、式は終了しました。

令和2年度SD「事務職員向け学内研修」実施

令和2年7月から10月にかけて、事務職員が各部署の業務内容と最新情報を理解することで知識向上と業務の効率化を図ることを目的として、学内SD研修が実施されました。【写真】なお、開催に当たり、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各回定員を設けての実施となりました。

他部署がどのような仕事をしているのかについて普段なかなか知る機会がありませんが、この学内研修を通して、各部署の業務内容、他部署との違い、業務において気を付けるべきポイントなどについて、各担当者から説明があり、基本的知識や最新情報を事務職員同士で共有することができました。

受講者からは、「業務上関わりのない部署の説明を聞いて勉強になった。」、「あまり接点のなかった部署の場所や業務内容を知ることができた。」、「自



分の知らなかった知識を学ぶことができた。」といった感想がありました。今後も様々な部署に講師を依頼し、本研修を事務職員の知識向上と情報共有の機会とする予定です。

※ SD（スタッフディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み。

<事務職員向け学内研修>

開催日：7月1日（水）

テーマ：医学研究等を行うために医師等が行う手続とは？

講師：岡 信充（臨床研究審査事務室・課長）

開催日：8月5日（水）

テーマ：用度課／総合物流センター事務室の業務紹介

講師：加納洋亮（用度課・主事）

南條芳幸（総合物流センター事務室・主任）

開催日：8月26日（水）

テーマ：メディカルクリニック事務室の業務紹介

講師：武井弘一（メディカルクリニック事務室・主任）

開催日：9月16日（水）

テーマ：管財・契約室の業務紹介

講師：江村敦史（管財・契約室・主査）

桂川貴晃（管財・契約室・主事）

開催日：10月14日（水）

テーマ：医療情報システム課の業務紹介

講師：森山峰義（医療情報システム課・主事）

令和2年度SD「新規採用職員ビジネスマナー研修」実施

令和2年9月24日（木）大学本館たちばなホールにおいて、令和2年度新規採用職員向けのビジネスマナー研修が実施されました。【写真】当初この研修は、入職2日目の4月2日に実施される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により集合研修ができなかったため、半年後のこの時期に開催となり、139名の新規採用職員が午前・午後の部に分かれて研修を受講しました。

研修では、令和元年度の全学コミュニケーション研修（自己肯定力アップ研修）を担当頂いた、研修会社「リベル」の近藤ひろえ代表を講師としてお招きし、「半年を振り返りながらビジネスマナーを改めて見直す」というテーマで研修が行われました。接遇用語・身だしなみについてなど、最も基本的なビジネスマナーはもちろん、患者・スタッフとのコミュニケーションのコツや、自身のストレスコントロールについて、ケーススタディを用いながら理解



を深めました。

受講者からは、「職場の人間関係など、社会人となってから当たる壁の乗り越え方を考える上で、とても参考になりました。」「今回の研修で具体的な場面を想定して学ぶことができ、とても参考になりました。」などの感想がありました。

※ SD（スタッフディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み。

令和2年度SD「目標管理評価者研修」実施

令和2年10月13日（火）大学本館たちばなホールにおいて、株式会社インソースの講師をお迎えし目標管理評価者研修が開催され、午前・午後の部を合わせて58名の管理職が参加しました。【写真】

今回の研修では、管理職の使命は「チームとして成果を出すこと」であるという前提を確認した上で、評価の意義と重要性、評価の手順、評価面談の流れについて学習しました。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から「3密」を避けるため、例年行っているグループワークやペアワークを実施することができませんでしたが、評価時に陥りやすい傾向や、面談での効果的な声掛けの仕方、フィードバックの重要性などについて、講師による具体例の提示を参考に、理解を深めました。



受講者アンケートでは、「実際の目標面談の場面で活用していきたい。」「面接前から日々準備して評価をすることで人材育成に繋げていきたい。」などの感想がありました。

※ SD（スタッフディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み。

令和2年度SD「新規採用事務職員半年フォロー研修」実施

新規採用事務職員を対象に、配属後半年を一つの区切りとした半年フォロー研修が令和2年10月30日（金）に大学本館7階702会議室において実施されました。【写真】

本研修は、4月に入職した事務職員だけではなく、5月・9月・10月に入職した若手事務職員も受講対象者となりました。新型コロナウイルス感染症に留意し、一定の距離を取ってグループワークを実施することで、多様な考え方を学ぶとともに令和2年度採用の事務職員同士の仲を深め、部署を越えた人間関係づくりを行う機会となりました。

講義では、「ありのままの自分を受け入れる」方法に焦点を当てた自己肯定感研修や、仕事の目的や組織が自身に期待する役割からプロフェッショナルについて考える研修が行われ、これからより良く働く上で意識すべき考え方の一つを学びました。

最後に、これからの半年間に向けて目標設定を行い、半年後の自分への手紙を書くことで、これから



どのような自分になりたいのか具体的なイメージを膨らませました。

受講者からは、「自己肯定感を高めていくことが重要だと感じた。」「どのような仕事でも意味があると考え、貪欲に邁進していきたい。」といった感想がありました。本学では、大学の将来を担う人材を育成するために今後も積極的に様々な研修に取り組んでいく予定です。

※ SD（スタッフディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み。

令和2年度医学部第1回FD開催

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、4月初旬から遠隔講義への変更を余儀なくされました。遠隔講義の開始に当たり、教員にはWeb会議システム使用による講義方法の説明が行われましたが、十分に情報を共有することができていませんでした。そこで、今年度第1回FDでは、Web会議システム（Zoom）を用いた遠隔講義の基本的なノウハウを共有することを目的として、令和2年7月29日（水）にWeb開催にて実施されました。

始めに、前学期に講義を実施した物理学の仙石昌也准教授、生理学講座の佐藤元彦教授、内科学講座（呼吸器・アレルギー内科）の伊藤理教授から、それぞれの遠隔講義の経験をお話頂きました。Zoomの基本的な機能、画面共有におけるメリット・デメリットのみならず、スクリーンに投影する際の理想

的なスライド構成などが紹介されました。

続いて、数学の橋本貴宏准教授から、Zoomの投票機能、チャット、グループワーク用のブレイクアウトセッションなどが紹介され、チャットやブレイクアウトセッションについては、実際に参加者が体験しながら機能が紹介されました。

遠隔講義に対応するには労力が必要な場合もありますが、自らの講義方法を見直すチャンスでもあります。Web会議システムの多彩な機能を活用し、それぞれの授業内容に合う遠隔授業の形態を各教員が工夫しながら、この困難を乗り越えていくことが期待されます。

※ FD（ファカルティディベロップメント）：大学の授業改革のための組織的な取り組み。

令和3年度大学院医学研究科入学試験 第73回論文博士外国語試験実施

令和2年10月2日（金）本学本館7階711特別講義室において、大学院医学研究科入学試験第1次募集及び第73回論文博士外国語試験が行われました。合格者数は、大学院医学研究科入学試験が9名、論文博士外国語試験が4名となりました。大学院医学研究科では、入学定員に満たないことから、第2次募集を予定しています。

これまで社会人入学制度や学納金減免制度の拡充などを行い、大学院教育を受けやすい環境を整えてきましたので、研究意欲の高い方が多数応募されることを期待しています。

なお、大学院医学研究科入学試験第2次募集及び第74回論文博士外国語試験は、令和3年2月5日（金）に実施予定です。

令和3年度大学院看護学研究科入学試験実施

令和2年9月2日（水）に令和3年度大学院看護学研究科入学試験が行われました。合格者数は、修士論文コースが4名、高度実践看護師（専門看護師[CNS]）コースが2名、高度実践看護師（診療看護師[NP]）コースが6名となり、入学定員に満たないことから第2次募集を予定しています。

本研究科では、これまで医療等の現場で活躍されている方々が、退職したり休職したりすることなく

学べるよう、平日の夜間や土曜日などにも講義、研究指導等を行っています。更に、勤務や育児などの事情により標準修業年限での履修が困難な学生を対象とした「長期履修制度」を導入し、社会人がより学びやすい教育環境を整えています。（高度実践看護師（診療看護師[NP]）コースを除く。）

大学院看護学研究科入学試験（第2次）は、令和3年2月4日（木）に実施予定です。

学生表彰

令和2年9月24日（木）午後5時30分から大学本館4階の役員会議室において、学生の表彰が行われました。

今回の表彰対象者は、6学年次生の關栄茂さん、中山幹都さん、花林卓哉さん、古屋佑夏さん及び令和元年度卒業生の山田崇義さんらの5名で、解剖学講座の中野隆教授を始めとする同講座教員指導の下、『骨学のすゝめ』を共著したことが他の学生の模範となると評価されたものです。

表彰式当日には、現在愛知県内の病院で臨床研修医として活躍されている山田崇義先生にもお越し頂き、祖父江元学長から表彰状と記念品が贈呈されました。

『骨学のすゝめ』は、当時、Medical Science Club部長であった平成30年度卒業生の蓬萊春日さんをリーダーとして、解剖学講座の教員とともに5



左から、山田さん、關さん、中山さん、祖父江学長、中野教授、若槻医学部長、花林さん、古屋さん

年の歳月をかけて纏め上げられました。骨学を臨床と関連させながら学ぶことができる教科書で、学生の目線を盛り込んだ分かりやすい構成が特徴となっています。

今回のように表彰される学生が今後も続くことを期待します。

2020年度白衣式挙行

令和2年10月10日（土）午前10時から大学本館たちばなホールにおいて、2020年度医学部白衣式が、新型コロナウイルス感染症感染予防策を講じた上で挙行されました。

白衣式では、共用試験（CBT, Pre-CC OSCE）に合格し、臨床実習への参加及び後期課程への進級が認められた医学部4学年次生に対して「Student Doctor」の称号が授与されました。学生は、新しい実習衣を身に付け白衣式に臨みました。

初めに、若槻明彦医学部長から、臨床実習に臨む者としての心構えについての話があり、代表者へStudent Doctor証書が授与されました。引き続き、伊藤恭彦教務部長を始め、6名の臨床医学系教授から学生一人ひとりにStudent Doctorのワッペンが授与されました。

次いで、祖父江元 学長、藤原祥裕病院長、井上

里恵看護部長からの祝辞があり、愛知医科大学同窓会愛橋会の浅井富成理事長、昨年度に本学を卒業し研修医1年目の高橋周治医師からも激励の言葉がありました。

最後に、4学年次生代表の阿藤里帆さんが学生宣誓文を読み上げました。この宣誓文は、これから臨床実習に臨むに当たっての心構えなどを事前に学生全員がリモートで話し合っただけで作成したものであり、自分たちで考え、言葉にすることで、自らの臨床実習への意識付けや行動規範とするものです。学生それぞれが決意を新たに次のステップを踏み出しました。



学生代表の阿藤さんによる宣誓

令和2年度Post-CC OSCE及びPre-CC OSCE実施

今年度の客観的臨床能力試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）は、臨床実習前OSCE（Pre-CC OSCE）、臨床実習後OSCE（Post-CC OSCE）とともに、COVID-19感染対応のため例年とは大きく異なる実施形態となりました。

令和2年7月12日（日）実施の6学年次生対象Post-CC OSCEでは、臨床実習が十分に実施できなかったため、共用試験実施評価機構の指定課題は使用せず、本学独自課題のみでの実施とし、試験後に受験生にフィードバックを行いました。この試みは実施後アンケート調査から受験生・評価者とも好評であったことが確認できました。

また、令和2年9月12日（土）実施の4学年次生対象Pre-CC OSCEでは、医療面接はWeb会議システムを使用し、また、身体診察は模擬患者の代わりにシミュレーターを最大限使用して実施されました。



試験を受験する学生の様子

両日とも、各試験室での社会的距離の確保、手指衛生の徹底、評価者を1名とし試験室内の密を避けるなどの感染対策を行いました。

次年度以降、COVID-19感染状況がどのように変化しているのか予想できませんが、WithコロナにおけるOSCE実施に向けて検討を重ねていく必要があると感じています。今後とも皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和2年度医学部1学年次早期体験実習実施

科目責任者 伴 信太郎

科目担当者 早稲田 勝久

科目コーディネーター 川原 千香子

医学部では、1学年次に「シミュレーション実習」、「看護体験実習」、「臨床科体験実習」という三つの早期体験実習を実施しています。早期体験実習は、入学の早い時期に病院等医療現場での直接体験を通じて、医師を目指す動機付け、使命感の体得を目的とした、平成7年に文部科学省が定義した実習です。本学では、看護体験実習時に少しでも学生が積極的に参加できるよう、「シミュレーション実習」を「準備シミュレーション実習」に位置付け、様々な手技を演習していることは、学報第156号（2019年10月）において報告致しました。

今年は、COVID-19の影響で、前学期の「シミュレーション実習」、「看護体験実習」はオンラインでの履修を余儀なくされましたが、感染予防対策を十分にとることを前提に、9月初旬に病院実習を実施することが許可されました。そこで、標準予防策として実習学生全員に対し「手洗い、手指消毒、エプロン等標準予防策（Personal Protection Equipment）」の演習を行い、「看護体験」、「臨床科体験」、「学外臨床科体験」を一日ずつ実施し、手指消毒薬を一人一本持参して実習に臨むようにしました。

コロナ禍において同じ部署で実習を行う同級生でさえ、実習当日に初めて会話するような状況の中、学生が少しでも臨床の実際に触れることで、「看護師と医師の連携の重要性」、「コミュニケーションの必要性」、「常に患者について考える姿勢」など、多くの気づきや学びを得て、自分のなりたい医師像を考えるきっかけとなったことは、ひとえに臨床現場



手洗い、手指消毒、エプロン等
標準予防策演習の様子



看護体験の様子

における皆さまからの協力の賜物です。

また、感染予防対策指導については、看護学部の先生方、大学院生の皆さまにもご協力頂きました。正に指導者も多職種連携があってこそその実習の実現でした。そして、地域の医療を支える先生方には、感染のリスクを超えて、実習を受け入れて頂きありがとうございました。関係して下さった多くの皆さまに、この場を借りて心から感謝申し上げます。

令和2年度秋の交通安全講習会開催

令和2年10月22日（木）医学部・看護学部の学生を対象に、秋の交通安全講習会が名東警察署交通課長の平岡友幸警部を講師としてオンラインで開催され、両学部合わせて約240名の参加がありました。

平岡警部から、愛知県は交通安全死亡事故全国ワースト1位から脱却したものの未だ厳しい状況であることや、本学の学生も多く住む名東区の交通事故状況と、特徴として歩行者の横断中の事故、低速での追突事故が多いという点についての説明がありました。

また、近年、社会的反響のある危険行為「あおり運転」について、具体例や強化された罰則について

解説があったほか、「あおり運転」をされた時の対処方法についても詳しく説明して頂き、身近にある問題として学生が認識する貴重な機会となりました。

講習終了後には、交通安全に対するWebテストを全25問実施し、「ヘッドライトは、ハイビーム（上向き）を基本に走行するのが良い。」「横断歩道を横断しようとしている歩行者がいるときには、その横断歩道の手前で一時停止し、その通行を妨げないようにする。」など交通規則の確認が行われました。

今後も学生一人ひとりが安全運転に努めてくれるよう、引き続き啓発活動を続けて参ります。

令和2年度キャンパスハラスメント防止講演会開催

令和2年10月22日（木）に21世紀職業財団の清水智子氏を講師にお招きし、キャンパスハラスメント防止講演会が医学部・看護学部の新生を対象にオンラインで開催されました。今回の講演会には、課外活動におけるハラスメントを防ぐことを目的に、クラブ・同好会の部長も参加し、新生と合わせて約170名の学生が参加しました。

清水氏からは、大学におけるハラスメントの基礎知識や難しさ、被害にあっている時の対処方法など

について具体例を交えながら説明がありました。

講演会後のアンケートでは、「ハラスメントについて深く知ることができた。」「自分が被害者にも加害者にもなり得る可能性を持っていることを改めて認識した。」「自分が悩んだら周りに相談し、逆に周りが悩んでいたなら相談に乗ってあげようと思った。」などの感想が寄せられました。

今後もキャンパスハラスメントの無い環境作りに取り組んで参ります。

第47回愛知医科大学医大祭の中止

令和2年10月31日（土）及び11月1日（日）に開催を予定しておりました第47回愛知医科大学医大祭は、新型コロナウイルス感染症に対する感染対策を講じた企画等の実施を学生で構成される医大祭実行委員と本学教職員が慎重に協議を重ねて参りましたが、感染症終息の見通しがつかないため、残念ながら今年度の開催を中止とすることが決定されました。

例年、医大祭は学生の参加を始め、地域の方々にも多くご来場頂いており、楽しみにされている方々には大変申し訳ありませんが、ご理解の程お願い致します。

来年度以降、感染症拡大の情勢が落ち着き、開催の見通しがつきましたら、改めてご案内させていただきます。

医学部特別講義開催 ヘルスリテラシー（健康情報を使う力、伝える力）

令和2年10月14日（水）午後2時50分から大学本館3階303講義室において、医学部3学年次講義「健康増進と疾病予防」として福島県立医科大学の後藤あや教授を講師にお招きし、ヘルスリテラシーに関する特別講義が行われました。

この科目では、生活習慣病予防などを目的に、個人や集団の行動変容を促すスキルを身に付けることを目標としており、その一環として、情報の使い方・伝え方について、いくつかの演習を織り交ぜながら後藤教授にお話し頂きました。演習としては、食品の栄養成分表に記載されている内容をどの程度理解できているのかを確認したり、アプリを用いて様々なリーフレットにおける日本語の難易度を測定し、できるだけ平易な文章にしたり、といった作業が行われました。



後藤教授による講義の様子

例年であれば、より多くの意見を学生から聞くことができる内容であり、分散登校のため学生の数が少なかったこと、感染対策としてコミュニケーションも限られていたことが残念でしたが、学生は積極的に演習に取り組んでいるようでした。日常生活でも活かせる内容であったため、是非、家族や友人との会話の中でも役立ててもらいたいと思います。

看護学部体験講義開催

令和2年8月17日（月）に看護学部体験講義が開催され、愛知県立天白高等学校から高校生17名（1～3年生）及び教員1名が来学されました。

体験講義では、基礎看護学の山幡朗子准教授による「大学で看護学を学ぶこと」をテーマとした講義が行われ、看護師免許を取得するための進路について、専門学校、短期大学、4年制大学での教育内容の違いなどが紹介されました。また、近代看護教育の母であるナイチンゲールについて、どのような人物であったのかという紹介があり、講義の最後にはナイチンゲールの実際の声が録音された音声流れ、興味深そうに聞き入っていました。その後、ドクターヘリの見学を行い、間近で見るドクターヘリの迫力に圧倒されているようでした。

参加した高校生からは、「専門学校、短期大学と4年制大学の違いなど、看護師になるための過程が



講義の様子

詳しく分かった。」、「ドクターヘリや実習室などを見学することができて、とても充実した体験講義だった。」、「設備がきれいで充実していて、現場により近い雰囲気での学習できることが、とても良いと思った。」などの感想が寄せられ、参加者の皆さんにとって貴重な体験を通して有意義で充実した一日となったことと思われます。

令和2年度看護学部総合防災訓練実施

令和2年10月22日（木）に看護学部防災訓練がリモートによって開催されました。訓練の概要は、①学習進度を踏まえ学年ごとに訓練の目標設定と訓練内容の計画・実施、②看護学部の事務室に本部機能設置、③本部から全学生・院生・教職員の安否確認及び安否確認メールの送受信、④減災に繋がる質問紙調査の実施、⑤学生が考える防災川柳コンテストの実施等でした。

1学年次生には大規模災害による被災状況を視聴し通学中の被災を想定したシミュレーション、2学年次生には事例を用いて一次トリアージと応急手当、3学年次生には指導教員を中心に実習中の安否確認、4学年次生には帰宅困難となった学生が学内で過ごす場所や方法の検討、公衆衛生看護実習中の4学年次生には教員を中心に安否確認等を行いました。



看護学部災害対策本部

た。全ての学年で学生たちは積極的に取り組み、柔軟な発想で検討を重ね、多様な学びや自身の課題を見出し、個々人で、また学部として取り組むべき課題について提案することもできました。今回の訓練によって明らかとなった様々な課題に、今後具体的に取り組んでいく予定です。

<防災川柳コンテスト結果>

最優秀学部長賞

- ペンネーム「華」
- ・防災は 友も我が身も 守り抜く

優秀学部長賞

- ペンネーム「百万回生きたかった猫」
- ・「いつかくる」 明日への備えに 過分なし

佳作（※川柳のみ紹介）

- ・忘れない 人を救うため 自分も守れ
- ・3日分 ロッカーの中にも 入れておこう
- ・ヘリのもと 災害あれば いざ行かん
- ・ヘリポート 避難場所でも あるんです
- ・守り抜け 患者の前に まず自分
- ・4色で 多くを守る トリアージ

「災害看護と心のケア」

令和2年9月26日（土）午後1時30分から、NPO法人相馬広域こころのケアセンターなごみセンター長の米倉一磨先生をお招きし、「災害看護と心のケア」というテーマで、オンライン（Zoom）による大学院特別講義が開催されました。

東日本大震災では福島第一原発から30km圏内の精神病床800床以上が利用不可となり、入院患者の避難の問題だけでなく、地域で心のケアをどう維持するのかということが問題となりました。その南相馬の地で精神科病院勤務中に被災し、以後、訪問看護や地域での予防活動に取り組まれた米倉先生に、その実際について講義頂きました。その活動は、平時から構築されていたインフォーマルな多職種ネッ

トワークや、米倉先生が修了された大学院の「心のケアチーム」での活動が基盤になっていました。講義には当事者のご参加もあり現地からのオンライン（Zoom）の強みが発揮されました。

受講された方々からは、「看護師側と当事者側の両方の立場に立つことができた。」「メンタル面でのサポートだけでなく、生活の支援を行うことでその人が生活者として生きていくことができる。」などの声が寄せられました。また、「『孤独』に介入できる『看護』も社会的視点から考えて発展させていくべきものと感じた。」などの意見もあり、いつ起こる災害に向けて、平時からの看護実践を考える貴重な機会となりました。

「意思決定プロセスの臨床倫理」

令和2年10月10日（土）午後1時30分から、岩手保健医療大学学長の清水哲郎先生をお招きし、「意思決定プロセスの臨床倫理」というテーマで、オンライン（Zoom）による大学院特別講義が開催されました。

清水先生は、哲学、臨床倫理学、臨床死生学を専門とし、全国各地の医療・介護従事者と協働しながら臨床倫理を中心とした実践的研究活動を行われています。講義前半では、臨床倫理と人生・生命の考え方を踏まえ、本人・家族の意思決定支援は、医学的妥当性・適切性と本人・家族の人生・価値観の観

点からのアプローチであり、対話を重ねていきながら合意を図っていくプロセスであることを学びました。後半では、人生の最終段階のための意思決定支援として、人生の最終段階の捉え方、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の考え方とその課題について、理解を深めていきました。

今回の特別講義には、全国から200名を超える方々の参加がありました。参加者からは、オンラインによる講義の利便性や、「臨床に根差した講義内容であり、臨床倫理について深く考える貴重な機会になった。」などの感想が数多く寄せられました。

看護実践研究センター キャリア支援部門 臨床看護セミナー開催

令和2年9月26日（土）午後1時から本院周術期集中治療部の藤田義人教授（特任）及び集中ケア認定看護師である本院GICUの水谷卓史主任を講師として、「看護のためのフィジカルアセスメント～根拠に基づいた看護実践に活かす～」と題するオンラインセミナーが開催されました。

第1部では、藤田教授（特任）によるフィジカルアセスメント入門の講義を通して、呼吸・循環の基礎知識や急変の前駆症状を正しくアセスメントするための基礎的知識について理解を深めました。

第2部では、水谷主任による看護実践におけるフィジカルアセスメントの講義を通して、バイタルサインやフィジカルイグザミネーションスキルについて具体的な方法を分かりやすく学びました。水谷

主任はジェスチャーを交えながら説明し、参加者は一緒に体を動かしながら体の形態について確認することで理解を深めることができました。

臨床での体験からフィジカルアセスメントにおける疑問に関して、参加者から両講師への質問が行われ、これまでの貴重な体験を共有し、講義内容を実践へ繋げるための学びの機会となりました。参加者からは、「観察の方法を具体的に教えてもらい分かりやすかった。」、「事例検討は考えるきっかけになって良かった。」、「医師の見解と看護師としての視点の二本立てで分かりやすかった。」、「Zoom講義は時間場所の拘束も少なく参加しやすい。」など、良好なご意見が寄せられ、盛況のうちに終わりました。



藤田教授（特任）によるオンラインセミナーの様子



左から、神原和代看護部副部長、水谷主任、
佐藤ゆか看護実践研究センター長

看護実践研究センター キャリア支援部門 特別セミナー開催

令和2年8月29日（土）午後1時から聖路加国際病院感染管理室マネージャーの坂本史衣氏をお招きし、「新型コロナウイルス感染症の現状と対策～最新情報を交えて～」と題するオンラインセミナーが開催されました。新型コロナウイルス感染症が世界的に流行して早くも半年が経ち、長期戦の様相を呈し、新型コロナウイルス感染症対策が試行錯誤に実施されている中、一人でも多くの看護職の実践改善に貢献することを目指し、初のオンラインによる特別セミナーとなりました。

第1部は、我が国の流行早期から自ら感染症対策の陣頭指揮を執られている坂本氏による講義を通し、最新の研究知見に基づく新型コロナウイルスの

特徴及び感染症対策に関わる基礎的知識への理解を深めました。

第2部は、坂本氏に加え、看護管理の立場から本院看護部副部長の萬谷和代氏、感染管理の立場から春日井市民病院感染症看護専門看護師の濱ひろみ氏、救急看護の立場から本院救急看護認定看護師の大和田幸男氏の3氏をパネラーとしてお迎えし、パネルディスカッションが行われました。新型コロナウイルス感染症対策は、感染管理部門のみが担うのではなく、病院全体の課題として位置づけ、あらゆる部門が協働して組織的に構築することの重要性を理解することができました。

大学病院 ～新センターのご紹介～

炎症性腸疾患センター

炎症性腸疾患センター・教授（特任） 佐々木 誠人

本院に令和2年10月1日付で「炎症性腸疾患センター」が設置されました。

炎症性腸疾患は、腸の粘膜に炎症や潰瘍を生じる原因不明の慢性疾患であり、主に潰瘍性大腸炎とクローン病を指し、いずれも厚生労働省の指定難病とされています。主に若年層で発症し、再燃と寛解を繰り返し慢性の経過をたどることから、学業・就労に影響を及ぼし、患者の生活の質の低下及び社会生産性の低下が問題視され、近年、急速に患者数が増加しています。

主な治療法は、薬による内科的治療ですが、改善

しない難治症例では手術による外科的治療が必要となる場合もあります。

本センターは、本院が愛知県難病診療連携拠点病院である強みを活かし、消化管内科、消化器外科及び小児科が中心となり、強固な協力体制の下、関連診療科等と連携して、個々の病状に適した専門性の高い最良の炎症性腸疾患治療を提供できる体制を構築し、愛知県下、更には東海地域における炎症性腸疾患治療の拠点施設へと発展させるものと期待されています。

マネジメントラダー・スペシャリストラダー認証交付式挙行

令和2年10月14日（水）午前10時から中央棟3階共同カンファレンスにおいて、令和2年度マネジメントラダー及びスペシャリストラダー認証交付式が執り行われました。

平成28年度にマネジメントラダーを導入し、4年目となりました。今年度は、マネジメントⅡやⅣの更新の方を含め16名が申請し、承認されました。看護部管理者として、院内のチーム医療に留まらず地域全体の看護の質の向上の要となることが求められています。常に変化を恐れず、社会のニーズに対応した変革ができること、コミュニケーション力、チーム力が高く建設的な交渉ができること、部下・後輩の支援者として効果的な人材育成ができるとともに自己の能力開発に邁進できることなど、発展的に尽力されることを期待しています。

また、スペシャリストラダーは令和元年に始まり2年目となります。今年度の申請者は6名であり、これでスペシャリスト全員がラダーを認定されました。先見性と広い視野を持ち、組織横断的に活動し、



マネジメントラダー認証の交付者



スペシャリストラダー認証の交付者

チーム医療を推進することができること、更にリーダーシップを発揮し、組織の変革者となり、地域へと発展的に活躍していくことを期待しています。

総合学術情報センター（図書館部門） 在宅での学習・研究支援実施

総合学術情報センター（図書館部門）では、本学の学生及び教職員に対し、在宅での学習・研究支援のために出版社等の協力により電子リソースの無料トライアルを設定し提供しています。

また、本学で契約している多くのデータベース・電子ジャーナル・電子ブックは自宅等からもアクセスできます。学部生に対し、今年度から学外アクセ

ス専用のID及びパスワードを一斉配布し、学習に活用できるように環境を整備しました。

電子リソース提供のほか、総合学術情報センターの短縮開館期間中は、所蔵する図書や雑誌のコピーを自宅等に郵送するサービスを提供しています。詳しくは、総合学術情報センター（図書館部門）までお問合せください。

愛知医大サービス株式会社 オリジナルグッズ紹介

愛知医大サービス株式会社では、本学オリジナルグッズをスタッフが企画しお届けしております。

今回は、その中の「オリジナルフェイスタオル」と「オリジナルトートバック」をご紹介します。二つのグッズには本学の特徴である大学及び病院の建物とドクターヘリを表現したいという思いから、デザイナーと何度も打合せを行い完成したデザインを施しました。「フェイスタオル」は白地の今治タオルを使用し、優しい肌触りとなっています。また、「トートバック」は生成りの不織布でサイドと持ち手部分がスカイブルーのA4サイズで使い易く、教職員や患者さんにも好評です。

今年度はコロナ禍の中、様々な行事が中止となり特設販売活動ができませんが、スタッフ一同頑張っており参りますので今後ともよろしくお願い致します。



オリジナルトートバック
及びフェイスタオル

～お問合せ先～

愛知医大サービス株式会社

立石プラザ3階事務室 内線：14131

ホームページ (<http://aichi-idai-service.com/>)

救命救急科 武山直志教授 救急医療功労者愛知県知事表彰受賞

救命救急科の武山直志教授【写真】が、令和2年9月9日（水）愛知県医師会館において、救急医療功労者愛知県知事表彰を受賞しました。

これは、多年にわたり、二次又は三次救急医療機関の救急現場に従事し、救急医療の向上に貢献されたことが評価されたものです。

表彰を受けた武山教授からは、「この度は名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。これも皆さま方のご協力及びご指導のおかげと感謝しております。今後も、なお一層精進していく所存でございます。」との感想がありました。



看護部 神原和代副部長 愛知県看護功労者表彰受賞

看護部の神原和代副部長【写真】が、愛知県看護功労者表彰を受賞されました。

これは、看護職員として長年業務に従事し、顕著な功績のあった者に授与される賞であり、令和2年9月8日（火）愛知県産業労働センター（ウインクあいち）において開催された令和2年度愛知県看護大会の席上で、表書式が行われました。

表彰を受けた神原副部長から「この度は名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。本院で40年にわたり看護師として患者さんに関わり、そして、教育に携わり責務を果たして参りました。これも皆さま方のご協力及びご指導の賜りものだと感謝しております。



す。今後もなお一層精進していく所存でございます。今後ともご支援頂きますよう、よろしくお願い致します。」との感想がありました。

優良自動車運転者表彰

毎年、模範的な運転を行い、交通の安全確保に貢献している方に対し、愛知警察署、交通安全協会及び愛知安全運転管理協議会から「優良自動車運転者表彰」が行われています。

今年は、令和2年10月1日付で、医学部学生部長である衛生学講座の鈴木孝太教授【写真】が表彰を受けられました。この表彰は、学生を指導する立場として自ら安全運転を心掛け、長年無事故・無違反を続けていることが評価されたものです。

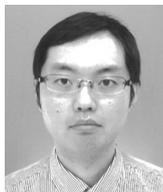
鈴木教授からは、「学生が安全運転を心がけるよう、教員としてこれまで以上に注意して運転したい。」との感想がありました。



学 術 振 興

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



速水 智英

学位授与番号 甲第573号

学位授与年月日 令和2年9月10日

論文題目：「Tumor-like features of gene expression and metabolic profiles in enlarged pancreatic islets are associated with impaired incretin-induced insulin secretion in obese diabetes : A study of Zucker fatty diabetes mellitus rat (遺伝子発現と代謝様式に腫瘍様の特徴を呈する肥大膵島は、肥満糖尿病におけるインクレチン応答性インスリン分泌障害に関与している - ZFDMラットを用いた検討 -)」



三岡 裕貴

学位授与番号 甲第574号

学位授与年月日 令和2年9月30日

論文題目：「The left brachiocephalic vein 'spur' : A cadaveric and contrast computed tomography study (左腕頭静脈'spur' : ご遺体と造影CTを用いた研究)」



宮本 亮佑

学位授与番号 甲第575号

学位授与年月日 令和2年9月30日

論文題目：「A nationwide questionnaire survey on accidental magnet ingestion in children in Japan (小児磁石誤飲の実態に関する全国調査)」

◆大学院看護学研究科



川畑 愛子

学位授与番号 第133号

学位授与年月日 令和2年9月28日

論文題目：「糖尿病看護認定看護師による30分フットケア外来支援の経験から抽出した臨床判断」

研究助成等採択者

◇一般社団法人日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科
学会 研究助成事業

・氏名 山梨裕貴（整形外科・助教）
研究題目 半月板再生を目標とした半月板細胞
の移植と生着に関する研究
助成金額 1,000,000円

◇一般社団法人日本損害保険協会 交通事故医療研
究助成

・氏名 武内恒成（生物学・教授）
研究題目 神経再生障害因子制御とシナプスコ
ネクトによる機能回復システム－脊
髄損傷超回復系導出AIモーション
キャプチャーによるヒト外挿系の構
築－
助成金額 4,700,000円
・氏名 伊藤卓治（客員研究員）
研究題目 ヒトiPS細胞による新たな機能的神
経・筋共培養モデルの構築
助成金額 1,000,000円

◇公益財団法人戸部眞紀財団 研究助成

・氏名 大塚俊（解剖学講座・助教）
研究題目 深筋膜の特異的な発達对身体運動パ
フォーマンスに及ぼす影響－自転車
選手の大腿部に着目して－
助成金額 1,000,000円

◇公益財団法人豊秋奨学会 研究費助成

・氏名 山村彩（生理学講座・講師）
研究題目 肺高血圧症に関与する新規サイトカ
イン受容体の機能解析と標的創薬
助成金額 1,800,000円

◇公益財団法人日東学術振興財団 研究助成

・氏名 松井卓哉（生理学講座・講師）
研究題目 白血病治療を目指した新規ヘテロ二
量体“フラバシトロポン”の標的分子
探索と作用機序の解明
助成金額 1,000,000円

・氏名 林寿来（生理学講座・講師）
研究題目 間葉系幹細胞由来エクソソームによ
る組織修復機能の解明と加齢黄斑変
性に対する効果
助成金額 1,000,000円

・氏名 伊藤卓治（客員研究員）
研究題目 疾患特異的iPS細胞を用いた運動
ニューロン疾患の病態解析
助成金額 1,000,000円

◇公益財団法人大幸財団助成 学会等開催助成

・氏名 佐藤元彦（生理学講座・教授）
学会名称 第67回中部日本生理学会
助成金額 70,000円
・氏名 加藤栄史（輸血部・教授（特任））
学会名称 第27回日本輸血・細胞治療学会秋
季シンポジウム
助成金額 230,000円

◇一般社団法人日本血液学会 研究助成

・氏名 花村一郎（内科学講座（血液内科）・
教授（特任））
研究題目 遺伝子変異にもとづいた難治性骨髄
腫の個別化治療をめざした基礎的研
究
助成金額 300,000円

◇公益財団法人中部科学技術センター 学術・みら
い助成（中部科学技術センター学術奨励研究助成
事業）

・氏名 大塚俊（生理学講座・助教）
研究題目 医療用ガスの抗炎症作用に着目した
新しい腹膜障害の治療法の開発
助成金額 300,000円

令和2年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 交付決定

令和2年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）が採択され、次のとおり交付決定がありました。

(金額単位：千円)

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
新学術領域研究 (研究領域提案型) (補助金)	武内恒成 医学部 生物学, 教授	2,300	690	細胞外環境とシナプスコネクトによる超適応機能－脊髄損傷後の超回復とAIトレース－
基盤研究(B) (補助金)	内藤宗和 医学部 解剖学, 教授	1,100 (継続)	330	高压メディカルガスを用いた新しい臓器保存法の確立
〃	都築忍 医学部 生化学, 教授(特任)	3,000 (継続)	900	ALL特異的融合遺伝子のin vivo機能解析から見た白血病多段階発癌機構の解明
〃	渡辺秀人 分子医科学研究所 教授	4,200 (継続)	1,260	病態の組織破壊・修復を制御する細胞外プロテオグリカンの代謝と分解産物の新規機能
〃	岡田洋平 医学部 内科学(神経内科), 准教授	4,800 (継続)	1,440	疾患iPS細胞を活用した液性因子による運動ニューロン疾患の早期病態解明
〃	平井宗一 医学部 解剖学, 教授(特任)	2,000 (継続)	600	新たな内因性生理活性ガス送達システムの構築と移植医療への応用
〃	小林孝彰 医学部 外科学(腎移植外科), 教授	5,100	1,530	治療から予防へ：エピトープ/パラトープ解析に基づく革新的免疫制御法の創出
特別研究員奨励費 (補助金)	伊藤卓治 客員研究員	1,200 (継続)	360	iPS細胞による革新的神経・筋共培養システムを用いた運動ニューロン疾患の病態解析
基盤研究(C) (一般)(基金)	西原真理 医学部 学際的痛みセンター, 教授(特任)	(延長)	0	感覚過敏に対する新しい治療法の開発
〃	犬飼洋子 医学部 生理学, 講師	(延長)	0	辛味性(口腔内TRPV1活性化)発汗による選択的脳冷却の検討：熱中症予防への応用
〃	小西裕之 医学部 生化学, 教授(特任)	(延長)	0	CRISPR-Cas9 nickaseによるDNA二重鎖切断を伴わないゲノム編集
〃	杉浦信夫 客員研究員	(延長)	0	酵素合成コンドロイチン硫酸のナノ粒子複合体の調製と, CS受容体の探索と機能解析
〃	乾匡範 医学部 感染・免疫学, 講師	(延長)	0	小胞体膜分子Nogoによる病原性自己抗体産生の新たな制御機構の解明
〃	倉橋宏和 医学部 小児科学, 講師	(延長)	0	グリアに着目した急性脳炎・脳症の病態解明と新規治療法の開発
〃	矢野智紀 医学部 外科学(呼吸器外科), 教授(特任)	(延長)	0	女性ホルモンが非浸潤性肺腺癌に及ぼす影響：新たな肺癌治療法の確立を目指して
〃	大須賀浩二 看護学部 病態治療学, 教授	(延長)	0	慢性硬膜下血腫被膜への好酸球誘導因子の解明と新たな治療法の確立
〃	武内恒成 医学部 生物学, 教授	(延長)	0	新規バイオマテリアルを用いた脊髄損傷治療の可能性－細胞外環境操作と炎症制御解析－

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究 (C) (一般) (基金)	吉川和宏 研究創出支援センター 特務教授	(延長)	0	子宮頸がんを発生させるHPVのE7蛋白を標的とした細胞内分子標的療法の開発
〃	小川徹也 医学部 耳鼻咽喉科学, 教授 (特任)	(延長)	0	頭頸部がん治療における新たなる免疫化学療法の開発-CTLと抗がん薬併用の意義
〃	三木研作 看護学部 病態保健学, 教授	(延長)	0	顔から笑いを抽出するメカニズムの解明: 対人コミュニケーションへの応用を目指して
〃	小島徳子 看護学部 母子看護学, 講師	300 (継続)	90	NICU入院児を持つ褥婦への足湯による乳頭・乳輪の状態の定量化と搾乳に及ぼす効果
〃	大道美香 医学部 解剖学, 助教	700 (継続)	210	習慣的運動による慢性痛予防機序の基礎的解明
〃	佐藤麻紀 医学部 IR室, 講師	800 (継続)	240	小児におけるLED光暴露がホルモンリズムおよび時計遺伝子の発現に及ぼす影響
〃	小松紘司 医学部 生理学, 講師	500 (継続)	150	卵胞発育制御機構の解明と原始卵胞のin vivo activation法の開発
〃	村上秀樹 医学部 病理学, 教授 (特任)	600 (継続)	180	メラノーマにおけるがん遺伝子産物MITFのSUMO化機構の解明と標的治療への応用
〃	鈴木進 研究創出支援センター 准教授	1,200 (継続)	360	がん免疫抑制環境の改善に基づく新たながん免疫療法の開発に向けた基礎的研究
〃	丹羽淳一 医学部 脳卒中センター, 教授 (特任)	700 (継続)	210	疾患特異的iPS細胞を用いたポリグルタミン病創薬スクリーニングシステムの開発
〃	垣田博樹 医学部 周産期母子医療センター, 講師	900 (継続)	270	新生児低酸素性虚血性脳症に対するグリア由来脳内微小環境改善による新規低体温療法
〃	奥村彰久 医学部 小児科学, 教授	1,100 (継続)	330	MERS-異常言動スペクトラムの分子生物学的基盤の解明
〃	伊藤恭彦 医学部 内科学 (腎臓・リウマチ膠原病内科), 教授	1,000 (継続)	300	腹膜透析における除水不全, 腹膜機能障害の病態解明と新たな治療戦略
〃	太田明伸 医学部 生化学, 講師	1,000 (継続)	300	PBKが骨髄腫の悪性化に寄与する作用機序の解明と治療標的分子としての可能性の検討
〃	高見昭良 医学部 内科学 (血液内科), 教授	1,000 (継続)	300	造血細胞移植関連遺伝子多型機能に基づく免疫制御性マイクロRNAの探索
〃	野田貴幸 薬学部 薬剤師	900 (継続)	270	ドナー特異的抗体 (DSA) 制御に向けたHLA産生B細胞への多角的アプローチ
〃	新井健一 医学部 運動療育センター, 准教授	900 (継続)	270	腸内細菌叢の痛みの認知や調節機能におよぼすメカニズム
〃	藤田義人 医学部 周術期集中治療部, 教授 (特任)	700 (継続)	210	RNAiを用いた脳水チャネル機能調節による脳浮腫抑制の臨床応用
〃	武山直志 医学部 救命救急科, 教授	400 (継続)	120	多発外傷時における白血球遺伝子発現プロファイル解析: T-iPS細胞療法への応用
〃	津田雅庸 医学部 災害医療研究センター, 教授 (特任)	700 (継続)	210	敗血症におけるInnate Lymphoid Cellの機能解析

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	宮地茂 医学部 脳神経外科学, 教授	800 (継続)	240	脳血管内治療支援ロボットの開発
〃	梅村朋弘 医学部 衛生学, 講師	400 (継続)	120	南アジアにおける大気汚染と健康障害: 都市と農村の比較およびマスク介入の効果
〃	鈴木孝太 医学部 衛生学, 教授	1,000 (継続)	300	胎児期からのライフコースを考慮した, 生活習慣病発症に関わる要因の疫学的検討
〃	佐藤ゆか 看護学部 感染看護学, 教授	100 (継続)	30	抗微生物薬物療法に関する看護実践と看護継続教育の全国実態調査
〃	山幡朗子 看護学部 基礎看護学, 准教授	600 (継続)	180	過敏性腸症候群患者に対する生活習慣改善を促す看護援助プログラム作成に関する研究
〃	山本恵美子 看護学部 基礎看護学, 准教授	600 (継続)	180	「介護安全」のための職種特性を活かした連携安全力の測定と教育実践
〃	荻野朋子 看護学部 老年看護学, 准教授	200 (継続)	60	写真療法が軽度から中等度の認知症高齢者のQOLに及ぼす効果に関する研究
〃	阿部恵子 看護学部 臨床実践看護学, 教授	1,000 (継続)	300	4年間の地域包括的ケア体験学習プログラムの構築と看護OSCEによる評価
〃	前田圭介 医学部 緩和ケアセンター, 准教授	1,200 (継続)	360	サルコペニアの摂食嚥下障害の診断, 有病率, リスク因子に関する研究
〃	青野修一 医学部 疫学・ケアマネジメント学, 講師	700 (継続)	210	質問紙への回答に対する信頼度評価法の開発と疼痛問診システムへの応用
〃	仙石昌也 物理学部 物理学, 准教授	500 (継続)	150	クラウドを利用した協働作業プロセスの定量的指標の開発と評価への応用
〃	猪子誠人 医学部 病理学, 講師	1,000 (継続)	300	上皮組織が階層分化する仕組みの細胞生物学的理解
〃	佐藤元彦 医学部 生理学, 教授	1,300 (継続)	390	G蛋白活性調節因子制御による肺高血圧の治療
〃	笠井謙次 医学部 病理学, 教授	1,100 (継続)	330	トリプルネガティブ乳癌における新規核内蛋白ネットワークによる細胞増殖特性
〃	山崎達也 医学部 感染・免疫学, 助教	900 (継続)	270	自然免疫受容体に対するアゴニスト抗体のワクチンアジュバントへの応用
〃	池野正史 医学部 生物学, 准教授	1,100 (継続)	330	悪性グリオーマ治療の製剤化に向けたHSVtk遺伝子導入細胞株の構築
〃	牛田享宏 医学部 学際的痛みセンター, 教授	1,100 (継続)	330	骨格筋再生による疼痛性瘢痕治療法の研究: 間葉系幹細胞の選択と細胞外環境の解析
〃	道勇学 医学部 内科学(神経内科), 教授	1,300 (継続)	390	疾患iPS細胞を用いた球脊髄性筋萎縮症の骨格筋病態の解明
〃	伊藤清顕 医学部 内科学(肝胆腸内科), 教授(特任)	1,100 (継続)	330	B型肝炎再活性化や発癌の原因となるエンベロープ蛋白質追加糖鎖修飾の分布と機能解析
〃	高村祥子 医学部 感染・免疫学, 教授	1,100 (継続)	330	脂質会合タンパクの動脈硬化における役割解明と治療応用

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	細川好孝 医学部 生化学, 教授	1,200 (継続)	360	胸膜中皮腫の予後改善を目指した診断マーカーと阻害化合物の探索
〃	勝野敬之 医学部 内科学(腎臓・リウマチ膠原病内科), 准教授	1,100 (継続)	330	補体活性と糖鎖異常に着目した二次性血栓性微小血管症(TMA)の病態解明
〃	花村一郎 医学部 内科学(血液内科), 教授(特任)	1,100 (継続)	330	ゲノム編集によるFLT3変異改変ヒト白血病細胞の作製と新規治療法の探索
〃	松下宏 医学部 産科・婦人科, 准教授(特任)	1,000 (継続)	300	若年女性に増加している子宮内膜症は閉経後骨粗鬆症の危険因子か?
〃	中野正吾 医学部 外科学(乳腺・内分泌外科), 教授	800 (継続)	240	バーチャルリアリティ技術を用いたMRI非腫瘍性乳癌手術支援システムの開発
〃	畑山直之 医学部 解剖学, 講師	1,100 (継続)	330	ガスメディエータ送達技術の拡大適応ドナー臓器への応用
〃	シバスダラン 医学部 生化学, 講師	1,200 (継続)	360	ゲノム医療を目指した遺伝子異常に基づく悪性中皮腫発症機構の解明と治療標的の探索
〃	畠山登 医学部 麻酔科学, 教授(特任)	1,100 (継続)	330	敗血症性心筋症の病態生理学的解明およびカテコラミン類修飾作用の研究
〃	高木潤子 医学部 内科学(内分泌代謝内科), 教授(特任)	1,100 (継続)	330	家族性膝蓋骨無形成症の新規原因遺伝子の同定と疾患発症機序の解析
〃	三輪祐子 医学部 腎疾患・移植免疫学寄附講座, 助教	1,000 (継続)	300	腎移植におけるBKウイルスモニタリングシステムによるグラフト長期生着への取り組み
〃	瓶井資弘 医学部 眼科学, 教授	1,300 (継続)	390	虚血網膜の再灌流メカニズムの解明
〃	池上啓介 医学部 生理学, 助教	600 (継続)	180	眼圧概日リズムの分子制御機構の解明
〃	柴田英治 保健管理センター 特務教授	300 (継続)	90	肺内各種繊維状粉じん曝露指標の解析によるわが国の空気環境の経年変化の解析
〃	篠田かおる 看護学部 基礎看護学, 准教授	1,200 (継続)	360	医療器材及び医療従事者の手指の洗浄・殺菌に適したファインバブルの条件に関する研究
〃	心光世津子 看護学部 精神看護学, 教授	600 (継続)	180	学際的アプローチによる精神科病棟看護における自己決定支援の視点・要件の可視化
〃	白井裕子 看護学部 在宅看護学, 准教授	1,100 (継続)	330	野宿生活者が路上にとどまる理由-野宿生活の長期化に影響を与える野宿生活者の経験-
〃	下園美保子 客員研究員	800 (継続)	240	プログラム評価理論に基づく、介護予防プログラムの評価理論及び評価体制の構築
〃	大道裕介 医学部 解剖学, 講師	1,500 (継続)	450	身体不活動による病的疼痛の光遺伝学的解析と理学療法効果の科学的検証
〃	中野雄介 医学部 循環器内科, 准教授(特任)	1,400 (継続)	420	中性脂肪蓄積心血管症に対する特異的栄養療法の動脈硬化抑制効果に関する検討
〃	笹倉寛之 医学部 生物学, 特別研究助教	900 (継続)	270	補酵素PQQで惹起されるレドックスシグナルによる細胞外マトリックスリモデリング

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	山 森 孝 彦 医 学 部 外 国 語 教 授	1,300	390	英語医療面接評価で着目する定量的観察可能な要素の抽出と キャリアレーション動画作成
〃	藤 田 京 子 医 学 部 眼 科 講 師	700	210	薄暮時や夜間における視覚障害者の行動評価と視機能との関 連
〃	宮 本 淳 医 学 部 心 理 学 准 教 授	900	270	協働学習の心理的成果の測定
〃	幡 野 そ の 子 分 子 医 学 研 究 所 助 教	1,100	330	コンドロイチン硫酸による免疫応答制御：糖鎖構造とシグナ ル伝達機構
〃	小 西 裕 之 医 学 部 生 化 学 教 授 (特 任)	1,500	450	臨床応用を目指す高効率・高精度なCRISPRノックイン法の 確立
〃	加 塩 麻 紀 子 医 学 部 生 理 学 講 師	1,400	420	体温と代謝をつなぐ体温センサー TRPM2機能制御機構の解 明
〃	尾 張 慶 子 医 学 部 運 動 療 育 セ ン タ ー 助 教	1,800	540	若年慢性疼痛における睡眠習慣の調査およびアセスメントツ ールとしての睡眠検査の検討
〃	山 村 彩 医 学 部 生 理 学 講 師	1,000	300	肺高血圧症リモデリングに関与するカルシウム感受性受容体 の新規下流シグナルの探索
〃	山 口 奈 緒 子 医 学 部 薬 理 学 准 教 授	1,000	300	ストレス応答の異常な持続的亢進をもたらす脳内機序の解明
〃	宮 原 弘 明 加 齢 医 学 研 究 所 講 師	1,400	420	MELAS剖検脳を用いた脳卒中様発作部位のミトコンドリア 機能解析
〃	上 田 博 子 医 学 部 周 産 期 母 子 医 療 セ ン タ ー 助 教	1,300	390	副腎不全とグリアに注目した脳室周囲白質軟化症の病態解明 と新規予防法の確立
〃	倉 橋 宏 和 医 学 部 小 児 科 学 講 師	1,100	330	MYRF遺伝子を起点とした発熱時言動異常の病態解明
〃	中 出 幸 臣 医 学 部 内 科 学 (肝 胆 膵 内 科) 准 教 授	1,300	390	コノフィリンによるNASH進展抑制機序の解明
〃	伊 藤 理 医 学 部 内 科 学 (呼 吸 器 ・ ア レ ル ギ ー 内 科) 教 授	1,000	300	機械感受性チャネルPiezo1とメカノセンサーを標的とした呼 吸器疾患の病態解明
〃	中 山 享 之 医 学 部 中 央 臨 床 検 査 部 教 授 (特 任)	1,100	330	脂肪組織由来間葉系幹細胞－造血幹細胞における代謝経路解 析：抗加齢作用に注目して
〃	小 松 孝 行 医 学 部 感 染 ・ 免 疫 学 准 教 授	1,500	450	抗インフラマソーム能欠失型ウイルスを利用した新しいウイル ス予防・治療法の研究
〃	加 藤 義 郎 医 学 部 内 科 学 (糖 尿 病 内 科) 准 教 授	1,500	450	糖尿病性多発神経障害の病態におけるATP感受性Kチャネル の役割の解明
〃	神 谷 英 紀 医 学 部 内 科 学 (糖 尿 病 内 科) 准 教 授	1,300	390	糖尿病性虚血性疾患に対する体性幹細胞由来分泌因子を用いた 治療法の開発
〃	中 村 二 郎 医 学 部 内 科 学 (糖 尿 病 内 科) 教 授	800	240	糖尿病性多発神経障害におけるO-GlcNAc修飾の役割の解明
〃	石 山 宏 平 医 学 部 外 科 学 (腎 臓 外 科) 准 教 授 (特 任)	1,300	390	ES / iPS細胞移植を見据えた複数回臍島移植後の免疫応答の 解明と制御法の開発

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	馬嶋 剛 医学部 泌尿器科学, 講師	1,600	480	骨格筋由来マイオカインによる臓器連関を標的した排尿筋低活動の新規創薬研究
〃	林 寿来 医学部 生理学, 講師	1,000	300	加齢黄斑変性における再生療法に向けた細胞外小胞の機能解明
〃	古川 洋志 医学部 形成外科, 教授	1,600	480	細胞外微小環境の制御による次世代のリンパ節移植術の開発
〃	青木 瑠里 医学部 医学教育センター, 講師	900	270	「医学教育における学修支援の在り方についての探索的研究」
〃	川合 紗世 医学部 公衆衛生学, 講師	1,300	390	次世代へのピロリ菌感染防止による胃がん予防に向けた経済分析
〃	小川 匡之 医学部 法医学, 講師	1,400	420	新規前処理法を用いた血中薬毒物LC-MS / MS分析法開発とその評価法の検討
〃	鈴木 里美 看護学部 成人看護学, 講師	1,100	330	看護師特定行為における解剖体を用いたトレーニングセミナーの構築
〃	山本 弘江 看護学部 母子看護学, 准教授	900	270	子育て期の家族のメンタルヘルスに着目した支援とソーシャルキャピタルのあり方の検討
〃	沢田 淳子 看護学部 老年看護学, 助教	2,600	780	特別養護老人ホームにおけるWBT併用ケア管理教育プログラムの開発
〃	森田 博之 医学部 内科学(内分泌・代謝内科), 准教授	1,700	510	家族性先端巨大症罹患アスリートの発掘 - 新規原因遺伝子同定への学際的アプローチ
〃	伴野 勸 医学部 感染・免疫学, 助教	1,100	330	奇数鎖脂肪酸による骨代謝制御メカニズムの解明
挑戦的研究(開拓) (基金)	小林 孝彰 医学部 外科学(腎移植外科), 教授	7,500	2,250	抗ドナーHLA抗体産生を決定する濾胞ヘルパーT細胞クロノタイプの同定とその制御
挑戦的研究(萌芽) (基金)	岡田 洋平 医学部 内科学(神経内科), 准教授	(延長)	0	CAGリピート編集によるポリグルタミン病の根治的治療法の開発
〃	平井 宗一 医学部 解剖学, 教授(特任)	900	270	解剖体の多目的利用を可能とする新たな処置方法の開発及び管理運用システムの構築
若手研究(B) (基金)	林 文子 看護学部 母子看護学, 助教	100 (継続)	30	妊娠糖尿病の発症予防を目的とした妊婦の身体活動支援プログラムの構築
若手研究 (基金)	佐藤 啓 医学部 病理診断科, 助教	(延長)	0	血管免疫芽球性T細胞リンパ腫の発生機構および臨床病理学的特徴の解明
〃	伊藤 卓治 客員研究員	(延長)	0	疾患iPS細胞を用いた運動ニューロン疾患の神経・筋相互作用分子基盤の解明
〃	兵頭 寿典 医学部 生化学, 講師	1,300 (継続)	390	新たな分裂制御機構である収縮環における収縮「速度」制御の機能解析
〃	井戸 美来 医学部 乳腺・内分泌外科, 助教(医員助教)	1,100 (継続)	330	網羅的遺伝子解析から抽出した遺伝子産物を指標とする乳癌細分類の試み
〃	岩山 秀之 医学部 小児科学, 講師	800 (継続)	240	MCT8異常症の新規診断法と治療法の開発, および発達遅滞児を対象とした大規模解析

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
若手研究 (基金)	矢倉富子 医学部 解剖学, 助教	800 (継続)	240	高圧メディカルガスによる血小板保存効果の検証
〃	山岸由佳 医学部 感染症科, 教授(特任)	1,000 (継続)	300	腔内マイクロビータ解析に基づく女性生殖器感染症に対するテーラーメイド治療法の開発
〃	姫野龍仁 医学部 内科学(糖尿病内科), 講師	1,200 (継続)	360	糖尿病性多発神経障害におけるinsulin-Notch連関を介した再生機構の意義
〃	森島達観 医学部 整形外科, 講師	500 (継続)	150	最小侵襲手術に対応可能なセメントシステムの有限要素モデルを用いた開発
〃	山中真 看護学部 基礎看護学, 准教授	500 (継続)	150	高度実践看護師の実践技術の可視化
〃	内野かおり 医学部 血液内科, 助教	1,200	360	造血細胞移植の腸管免疫をToll様受容体で紐解く
〃	田口宗太郎 医学部 パーキンソン病総合治療センター, 助教	700	210	パーキンソン病治療効果の客観的判定手段としての脳血流SPECT検査の有用性
〃	東慶輝 医学部 小児科学, 講師	1,000	300	次世代シーケンス解析を用いた新規てんかん遺伝子の探索
〃	森麻里 医学部 周産期母子医療センター, 助教	200	60	NICU入院中の早期運動負荷による新たな早産児の発育改善への試み
〃	土本純 分子医科学研究所 助教	900	270	尿を用いた非侵襲性肝細胞がん腫瘍マーカーの開発 ビクニン上の糖鎖構造を標的として
〃	鬼無洋 医学部 内科学(腎臓・リウマチ膠原病内科), 准教授(特任)	1,600	480	多発性嚢胞腎におけるリンパ管新生の意義の解明と新規治療法の開発
〃	高間寛之 医学部 皮膚科学, 講師	1,600	480	掌蹠膿疱症の病態におけるマイクロバイオームの役割とアプレミラストの作用機序の解析
〃	成定明彦 医学部 産業保健科学センター, 講師	1,000	300	隠れマルコフモデルによる糖尿病発症モデル構築と糖尿病発症予防への展開
〃	平澤敦彦 医学部 整形外科, 助教	500	150	糖代謝異常への早期介入による靭帯骨化症是正の可能性を探る研究
〃	谷口千枝 看護学部 成人看護学, 准教授	900	270	看護職のための簡便かつ効果的な禁煙サポートツールの開発と評価
〃	王超辰 医学部 公衆衛生学, 助教	1,600	480	Circadian eating patterns and their associations with chronic diseases in the general population.
〃	福重香 医学部 解剖学, 助教	1,200	360	酸素ナノ気泡による効率的なヒト細胞大量培養法の確立
〃	安藤博彦 医学部 循環器内科, 准教授	900	270	若年性心筋梗塞に対するオメガ3脂肪酸補充療法の有用性および発症予防の検討
〃	陸美穂 医学部 病理学, 助教	1,500	450	乳癌の新規予後規定因子TSHZ2によるクロマチン制御と上皮間葉転換調節機構の解明
〃	赤木明生 加齢医科学研究所 助教	1,000	300	ヒトプリオン病における異常プリオン蛋白質の非中枢神経組織への広がり解明

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
若手研究 (基 金)	佐藤 啓 医学部 病理診断科, 助教	1,900	570	RNAscopeを用いた末梢性T細胞性リンパ腫, 非特定型の微小環境解析
〃	伊藤 秀明 医学部 病理学, 講師	900	270	STILによるタイトジャンクション減弱機構の解明と非浸潤性乳管癌病理診断への応用
〃	陸 雄一 加齢医科学研究所 助 教	2,300	690	前頭側頭型認知症の患者剖検脳を用いた海馬シナプス障害の解析
〃	テ・アラジョ・エルクラ ブルーノ 客員研究員	1,600	480	Drug screening system for early pathology of SBMA using disease specific iPSCs and novel biomarkers
〃	伊藤 卓治 客員研究員	1,600	480	疾患iPS細胞による神経・筋共培養を活用した神経変性疾患の病態解析システムの開発
〃	伊藤 誠 医学部 放射線科, 助教	1,200	360	大腸がん少数個腹部リンパ節再発に対する逐次免疫療法併用・寡分割放射線治療の標準化
〃	成田 晶子 医学部 放射線科, 助教	1,600	480	抗菌・鎮痛性能を有すX線可視化高吸水性ポリマー製球状物質を用いた血管塞栓術の確立
〃	竹下 覚 医学部 周産期母子医療センター, 助教	1,200	360	SGA児の血小板減少の機序解明と血小板制御による神経発達改善への治療戦略
〃	井上 匡央 医学部 肝胆膵内科, 助教	1,000	300	胆管癌に対する新規局所治療法の開発
〃	森田 奈央子 医学部 感染・免疫学, 助教	1,600	480	インフラマソームがRSウイルスの病原性発現に与える影響
〃	石原 亮太郎 医学部 麻酔科, 助教	1,300	390	脳水チャネル調節での脳浮腫抑制と低酸素プレコンディショニングによる脳神経保護
〃	苛原 隆之 医学部 救命救急科, 講師	1,000	300	侵襲時の栄養代謝動態の変化と治療的介入の可能性
〃	佐野 壘 研 究 員	1,000	300	甲状腺癌における免疫環境の解明と免疫療法の確立
〃	石田 雄一郎 医学部 眼科学, 助教	1,400	420	網膜細胞死抑制を介した新たな網膜剥離治療の開発
〃	中山 綾子 看護学部 基礎看護学, 助教	600	180	看護師の交代制勤務継続を可能にする健康管理行動実践に向けた教育ツールの開発
〃	篠壁 多恵 医学部 公衆衛生学, 講師	1,200	360	味覚に関する遺伝子多型と糖質摂取の循環器疾患危険因子への影響
〃	板津 良 看護学部 基礎看護学, 助教	1,200	360	集中治療室における薬剤耐性菌MRSA交差伝播の危険因子とリスク低減ケア方策の解明
研究活動スタート支援 (基 金)	新田 美里 看護学部 在宅看護学, 助教	800 (継続)	240	医療的ケア児を受け入れる放課後等デイサービスの現状と課題
奨励研究 (補 助 金)	石田 優利 栄養管理 栄 養 士	480	0	サルコペニアスクリーニングツールの妥当性の検討

- ・令和2年10月1日時点の情報を掲載
- ・研究種目及び課題番号順にて記載
- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載
- ・「交付決定通知」及び「交付申請書」を基に作成
- ・令和2年10月までの転入転出を含む
- ・基金については、今年度請求額を記載
- ・研究活動スタート支援（新規）は、交付決定があり次第、記載予定

令和2年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構 委託研究開発契約の締結

令和2年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究課題が採択され、次のとおり研究契約を締結しました。

（金額単位：円）

研究事業名	研究開発担当者	委託研究開発費	研究開発課題名
肝炎等克服実用化研究事業 B型肝炎創薬実用化等研究事業	伊藤清顕 医学部 内科学(肝胆膵内科), 教授(特任)	71,130,000	胆汁酸代謝調節機構を標的としたB型肝炎ウイルス制御
再生医療実現拠点ネットワークプログラム疾患特異的iPS細胞の利活用促進・難病研究加速プログラム	岡田洋平 医学部 内科学(神経内科), 准教授	39,000,000	神経・筋相互作用を標的とした運動神経疾患の病態解明と治療開発
新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	森島恒雄 客員教授	11,400,000	ウイルス性重症呼吸器感染症に係る診断・治療法の研究
脳科学研究戦略推進プログラム	吉田眞理 加齢医学研究所 特命研究教授	6,290,000	名古屋地区の神経疾患拠点の構築

- ・令和2年9月までの本学と日本医療研究開発機構との直接契約課題を記載（変更契約を含む）
- ・委託研究開発費は、他機関への再委託費及び間接経費を含む

令和2年度厚生労働科学研究費補助金交付決定

令和2年度厚生労働科学研究費補助金が採択され、次のとおり交付決定がありました。

（金額単位：千円）

研究事業名	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	三嶋廣繁 医学部 感染症科, 教授	6,750	2,025	性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	中村二郎 医学部 内科学(糖尿病内科), 教授	4,240	1,260	糖尿病神経障害・糖尿病足病変の診断ガイドラインならびに管理法の確立

- ・令和2年10月1日時点の情報を掲載
- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載
- ・「交付申請書」を基に作成

本学講座等の主催による学会等

【学会名】	【開催日】	【会長等】
・第98回日本脳神経外科学会中部支部学術集会	令和2年9月19日（土）	宮地 茂
・第67回中部日本生理学会	令和2年10月16日（金）～20日（火）	佐藤 元彦
・第6回日本NP学会学術集会	令和2年10月17日（土）～11月16日（月）	黒澤 昌洋
・第27回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム	令和2年10月23日（金）・24日（土）	加藤 栄史

第98回日本脳神経外科学会中部支部学術集会

脳神経外科学講座・教授 宮地 茂

令和2年9月19日（土）に第98回日本脳神経外科学会中部支部学術集会を開催致しました。当初は、名古屋市栄のデザインホールを会場とし、翌日に市民公開講座も行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため完全オンラインでの開催と致しました。

一般口演31演題、key note lecture10演題及び教育講演が行われ、会終了後には、引き続き第34回中部神経内視鏡研究会と第4回愛知県血栓回収療法教育セミナーのケースカンファレンスもオンラインにて開催されました。Zoomシステムを用いた初めてのWeb開催は、本学の医局において全ての配信と

運営を行いました。262人と例年よりかなり多くの方に参加登録及び視聴して頂き、face-to-faceではありませんが活発な討論が行われました。市民公開講座は、中日新聞にアナウンスを掲載して頂き、脳神経外科ホームページ内からYouTubeに入れるようにすることで、既に多くの方の視聴を頂いております。

全く初めての試みで手探りの運営でしたが、皆さまのご協力により、また、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からのご支援により、大きなトラブルもなく終了できましたことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第67回中部日本生理学会

生理学講座・教授 佐藤 元彦

令和2年10月16日（金）～20日（火）の5日間にわたり開催致しました中部日本生理学会は、中部地区（愛知、三重、岐阜、静岡、山梨、長野、福井、石川、富山、新潟）の大学・研究所等に在籍する日本生理学会会員を中心とした学術発表・情報交換を行う伝統的な学会です。持ち回り幹事形式で運営されており、今年度は本学生理学講座の佐藤（生理学2）と増渕悟教授（生理学1）が担当幹事となりました。本学での開催を目指しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響から通常開催は困難と判断し、オンデマンド方式によるWeb学会としました。

特別講演として祖父江元 理事長・学長から「神経変性疾患治療法開発の時代へ」と題した感銘深いご講演を頂きました。一般演題は53題の発表があり、掲示板による活発な質疑応答が行われました。本学会としては初めてのWeb開催でしたが、関西地区、関東地区からの参加もあり、例年をやや上回る123名の方が参加され、5日間の会期を無事終了することができました。

本学会の開催に当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援を頂きましたこと、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

第6回日本NP学会学術集会

臨床実践看護学・講師・診療看護師（NP） 黒澤 昌洋

第6回日本NP学会学術集会を愛知医科大学が担当し、令和2年10月17日（土）～11月16日（月）に開催致しました。開催方法は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、リアルタイムライブ配信とオンデマンド配信を併用したWeb開催としました。

本学術集会のメインテーマは、「拡張する高度実践看護の探求～看護学を基盤とした人間と健康の理解～」とし、初めて診療看護師（NP）が大会長を務めました。大会長を黒澤診療看護師（NP）、副大会長をJCHO中京病院の伊藤美佳診療看護師（NP）、本院の森一直診療看護師（NP）が務め、この3名【写真】は本学看護学研究科診療看護師コース第1期修了生でもあります。これは、ひとえに私たち診療看護師（NP）を育てて頂いた本学の皆さまの支えがあつてのことと感謝申し上げます。

基調講演では、看護学部初代学部長の高橋照子名誉教授、診療看護師コース初代教授の佐藤美佐子名誉教授にご講演を頂きました。また、米国本土、ハ



ワイ、シンガポールからリアルタイム講演を頂き、国際的な学术交流を促進することができました。過去最高の697名の参加登録を頂き、診療看護師（NP）の新しい価値を発見することができた学術集会となりました。

末筆になりましたが、本会の開催に当たり皆さま方の多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

第27回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム

輸血部・教授（特任） 加藤 栄史

令和2年10月23日（金）・24日（土）の2日間、第27回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウムをWeb開催致しました。当初、ウイックあいち（愛知県産業労働センター）でリアル開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、やむなくWebでの開催に変更致しました。また、ライブ配信とオンデマンド配信の両配信を用いて、多くの参加者が視聴できるように致しました。

本会は、テーマを「古くて新しい輸血細胞療法」として、輸血・細胞療法に関する基礎からiPS細胞など最新の話題について、特別講演、教育講演、シ

ンポジウムを企画しました。特別講演として、再生医療の第一人者でありますスタンフォード大学の中内啓光先生に「幹細胞研究から未来の医療へ」のタイトルで、カルフォルニアからリモートでご講演を頂きました。今回、2,100名を超える参加者が視聴され、Webにも拘らず活発な討議があり、リアル開催と遜色ない学術集会であったと自負しています。

末筆になりましたが、本会の開催に当たり皆さま方の多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取組みなどについて紹介致します。

臨床実践看護学

本学臨床実践看護学領域は、2011年度に急性・重症患者看護学として開設されました。以後、専門看護師（CNS）の養成を行っていましたが、2013年度からは診療看護師（NP）の養成を開始し、今年で8年目となります。1期～6期生までに18名が修了し、現在は、医師、看護師、診療看護師（NP）の3名の多職種教員で、これまでの最多学生数である13名（1学年次6名、2学年次7名）の教育を担っています。

在学中の2年間で、学生は、生理学、薬理学、フィジカルアセスメントのいわゆる3P科目と、臨床推論などの医学を基盤とした課目に加え、看護倫理学、看護研究などの看護学、そして課題研究を行い、理論的思考を学びます。また、21区分38行為の全特定行為を修得し、鑑別診断、治療に加え看護的ケアができるキュアとケアと両側面を兼ね備えた看護師となります。

昨年度からクリティカルケアコースに加え、プライマリケアコースを開設し、地域包括ケアのリーダーとして活躍できる診療看護師（NP）の育成にも力を入れています。近年は、全国から両コースの



診療看護師（NP）コースの教員



シミュレーション実習の風景

希望者が受験し、診療看護師（NP）の人気が高まっています。看護協会がナースプラクティショナー（仮称）の制度化を推進している中、本学も、診療看護師（NP）の教育・研究と実践の更なる向上を目指して努力していきます。

育てることは学ぶこと

小児科学講座・教授 奥村 彰久

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

「小児科学はどのような診療科ですか?」と尋ねられたとしたら、私は「成長と発達を見守る診療科です。」と答えます。小児科医は子どもの疾患を診るのみならず、子どもの成長や発達を見守り、疾患を克服するだけでなく健全な生活を送ることができるよう常に心がけます。小児科医は育てる姿勢がおのずから身に付くことになります。

小児科の卒前教育では、臨床講義の中にアクティブラーニングとしてTBL (team based learning) をいち早く採用し、学生に自ら学ぶ姿勢を身に付けるよう働きかけています。クリニカルクラークシップでは屋根瓦方式を採用し、チームの一員として実際に子どもや保護者の方と触れ合うとともに、カルテの記入やプレゼンテーションなど医師になるとすぐに求められるスキルを指導しています。

卒後教育では、初期研修医から子どもの診療について問診から身体診察を含めて実際に行い、上級医と一緒に診療の方針を考えるようにしています。後期研修医は、すぐに独り立ちができるように、自分で診療計画を立てたり様々な手技を実際に行ったりしており、後期研修が終わる頃には一人前の小児科医になっております。

小児科では、愛知医科大学で研修したのであれば安心だと言われるように、指導していきたいと考えています。それを支えるのは、小児科医の育てる姿勢です。一方、指導することは、学ぶことに繋がることは言うまでもありません。育てながら学ぶという好循環を絶え間なく行うことが、診療科のアクティビティの原動力になると考えます。

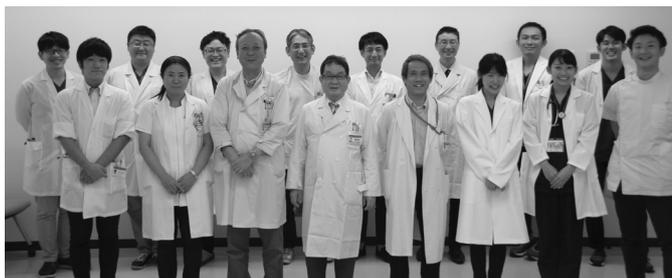
【世界に発信する医学研究】

小児科のサブスペシャリティは幅広く、全てを紹介するのは困難ですので、私が専門としている神経分野の研究を紹介します。小児神経学の研究では、近年遺伝学的研究が非常に盛んです。我々は、家族性の急性脳症に着目し、MYRF遺伝子のミスセンス変異と急性脳症との関連を明らかにしました。急性脳症では遺伝子との関係が明らかになっているものは極めて少数であり、画期的な成果です。PRRT2遺伝子は良性乳児てんかんの責任遺伝子です。我々は以前から良性乳児てんかんについて継続的に研究を行っており、PRRT2変異を持つてんかんについて多施設共同研究を行い、その臨床像を明らかにしました。また、結節性硬化症で急性脳症の合併を認めることに着目し、やはり多施設共同研究を行ってその実態とリスク因子を明らかにしました。

このように小児科は、主に臨床に根差した研究を継続しています。臨床で気付いた課題について多施設共同研究や全国調査を実施し、世界に向けてその成果を発信しています。若いうちから研究する姿勢を持つことの重要性を説き、学会報告や論文発表を指導しています。

【部署からの一言】

小児科は、若い医師を育成することに力を入れています。繰り返しになりますが、育成のためには自らの力をつける必要があります。若手から上級医までが楽しくお互いを刺激しあうことが、講座の発展に繋がると考えています。それを実現すべく、努めていく所存です。



医局員集合写真



カンファレンスの様子

臨床の中で疑問を持ち、その疑問を解決する視点

外科学講座（消化器外科）・教授 佐野 力

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

私たちはクリニカルクラークシップの学生に対し、active learningに基づいた教育方法を追求しています。患者の診察や手術の際に、良質で実践的な「問い」を発して、彼らの思考を刺激するよう努力しております。卒業試験や国家試験に合格させるための知識をつけさせることも必要ですが、実臨床では「答えのない問題」や「答えが一つではない問題」を考えなければなりません。そのために、彼らが生きた知識に基づく思考力と判断力、更にコミュニケーション能力を磨くことができるよう、より良い指導法を模索していきます。

腹腔鏡下手術が全盛となっている現在、若手外科医の教育方法も様変わりしております。本診療科では、各々の手術術式（胃切除術、大腸切除術、胆嚢摘出術など）について手技の統一化・定着を行い、定型手技をブラッシュアップしています。また、段階的な手術手技取得のプログラムが確立され、無理なく腹腔鏡下手術が上達できる仕組みを整えています。定期的に外部の専門医を招聘してのビデオカンファレンスや先進的な技術を持つ施設への研修派遣などを行い、チームとしてのレベルアップを図っています。このような努力が実り、若手外科医の執刀症例数が大半を占めるにもかかわらず、腹腔鏡下手術の安定した成績と適応の拡大を実現化しています。また、最近6年間で、難関である日本内視鏡外科学会の技術認定審査に5名が合格したことは特筆すべきです。

【世界に発信する医学研究】

本診療科では、消化器外科の日常診療に全力を注いでいますが、臨床疑問を持ち、その疑問を解決する視点を持つように指導しています。特に、学会発表や論文執筆も推奨され、日常診療へのフィードバックを目指しています。最近1年間で、英語論文8本（原著論文：5本、症例報告：3本）を執筆しています。

- ① Novel approach to intraoperative peritoneal lavage with an extracorporeal stirring method in laparoscopic surgery for generalized peritonitis: Preliminary results. Yasui K, et al. Asian J Endosc Surg. 2020 Jan; 13: 89-94.
- ② A novel classification of aberrant right hepatic ducts ensures a critical view of safety in laparoscopic cholecystectomy. Kurahashi S, et al. Surg Endosc. 2020 Jul; 34: 2904-2910.
- ③ The prognostic relevance of primary tumor sidedness to surgical treatment for recurrent colon cancer. Uchino T, et al. Surg Today. 2020 Jun; 28. doi: 10.1007/s00595-020-02060-0.
- ④ Dual common bile duct examination with transcystic choledochoscopy and cholangiography in laparoscopic cholecystectomy for suspected choledocholithiasis: a prospective study. Matsumura T, et al. Surg Endosc. 2020 Jul;9. doi: 10.1007/s00464-020-0779-y.
- ⑤ Preliminary results of robotic inguinal hernia repair following its introduction in a single-center trial. Saito T, et al. Ann Gastroenterol Surg. 2020 Jun; 4: 441-447.

【講座からの一言】

大学病院として高度先進医療を提供しつつ、市内唯一の基幹病院として急性疾患も含めた幅広い外科診療を展開しています。また、臨床研究を基軸としたエビデンスの発信も継続して行っております。忙しい毎日ですが、スタッフ全員が楽しく充実した医療を行い、患者さんに満足してもらえるよう頑張っております。気概ある若手諸君の入局にも尽力しています。今後とも学内外の諸先生方におかれましては、何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



消化器外科HP開設！ (<https://aichi-med-surg.jp>)



研修医対象の手術実習ラボ風景

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

医療保険の被保険者等記号・番号等の告知 要求制限に係る関係規則の整備

医療保険制度の適正かつ効率的な運営を図るための健康保険法等の一部を改正する法律が令和2年10月1日から施行され、本人確認等を目的とした被保険者等記号・番号等の告知を求めることが禁止されたため、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和2年10月1日

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学個人情報開示等の手続に関する規程
- ・学校法人愛知医科大学事業所内保育所に関する規程細則

病院長任用規程の一部改正

愛知医科大学病院長任用規程の一部が改正され、病院長候補者選考委員会の成立要件の改正に加え、就任後の所信表明についての規定が整備されました。

施行日は令和2年9月28日

加齢医科学研究所規程の一部改正等

加齢医科学研究所における研究部門として、新たにブレインリソースセンター及び小児神経病理部門を設置するため、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和2年10月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学加齢医科学研究所規程
- ・加齢医科学研究所の研究部門の組織等について（学長裁定）

病院規程の一部改正等

病院の中央診療部の組織として新たに炎症性腸疾患センターを設置するため、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和2年10月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学病院炎症性腸疾患センター規程
- ・愛知医科大学病院炎症性腸疾患センター運営委員会規程

【一部改正】

- ・愛知医科大学病院規程

危害予防規程の一部改正

愛知医科大学附属病院危害予防規程の一部が改正され、新たに「大規模な地震に係る防災及び減災対策に関すること」の項目が整備されました。

施行日は令和2年8月18日

排尿ケアチーム規程の制定

愛知医科大学病院排尿ケアチーム規程が制定され、入院外来問わずに包括的な排尿ケアを実施する排尿ケアチームに関して必要な事項が定められました。

施行日は令和2年9月1日

インフォームド・コンセントの適正な実施に関する規程の一部改正

インフォームド・コンセントの適正な実施に関する規程の一部が改正され、意思決定能力を備えた患者で、視力障害又は手の障害等により署名が困難な患者の同意手続きについての規定が整備されました。

施行日は令和2年9月1日